



## 編集月旦 2015年11月号

☆「長寿をすべての国民が喜びの中で迎え、高齢者が安心して暮らすことのできる社会」をめざした「高齢社会対策基本法」の制定（1995年11月・村山内閣）から20年。そういう社会にむかっていますか。この間、高齢化対策のうち年金・医療・介護といった「高齢者対策」はなんとか財政のやりくりをしながら進展をみましたが、社会参加意識の醸成・社会システムの創出・世代交流といった「高齢社会対策」は延滞しつづけてきたのです。

☆安倍内閣が「一億総活躍」を言うなら、3300万人余、4人にひとりに達した高齢者に社会参加を呼びかけて、目標の「新三本の矢」を訴えるべきではないですか。

「青少年(成長力)+中年(成熟力)」に「高年(円熟力)」の三世代の力を合わせて、オールジャパン・オールエイジズの「一億総活躍社会」をめざすことです。

☆10月7日の内閣改造で、安倍総理は「一億総活躍」をとなえて担当大臣を登場させました。これまでの女性と若者の「成長力」を優先し期待してきたアベノミクスの先行きを懸念して、「一億総活躍」を言い出した総理自身にも、そして担当の加藤大臣にも、残念ながら各地各界で地道な活動をしている「支え手の高齢者」の姿は見えていないようです。

☆「一億総活躍国民会議」の15人の民間メンバーに、女優の菊池桃子さんを選んで話題になりましたが、オールジャパン経済社会をめざすためには高齢世代の代表を四、五人は加えるべきでしょう。安倍総理と加藤大臣と現役官僚の視野にはいる人を集めてあわてて議論をしても、「一億総活躍社会」の実現にむかう構想や提案は出てこないでしょう。たとえば高連協の樋口恵子・堀田力両代表、プラチナ社会の小宮山宏元東大東大長、「高齢社会対策大綱」を検討した清家篤慶応義塾大塾長、東大高齢社会総合研究機構の秋山弘子特任教授といった方々のご意見を聞くべきでしょう。

☆目標の「新三本の矢」(GDP600兆円、出生率1.8、介護離職ゼロ)は方向がばらばらで「無的放矢」といわれてもしかたがありません。正しいマトはひとつ、高齢者参加による三世代協働の「日本長寿社会」(世界が期待する先行モデル)です。

☆「GDP600兆円」は、高齢者が保っている技術や知識や資産を活かした「優良国産・地産品」によるエイジノミクス(高齢化経済)により、「出生率1.8」は祖父母世代の支援による子育て環境づくりで、そして「介護離職ゼロ」は当事者である高齢者同士の「助け合い」による敬老介護があってそれぞれ可能になります。

☆繰り返しますが、「成長力(青少年)+成熟力(中年)+円熟力(高年)」の三世代力で支え合って創り出す「日本長寿社会」が、国際的にも評価され歴史の上でも新たな「一億総活躍社会」なのです。

☆一つひとつは水玉模様のように小さくとも、だれもが安心して生涯をすごすことができる「地域生活圏=エイジング・イン・プレイス」構想を掲げて、各地各界の高齢者みずから存在感を示すこと。そうして形成される総体が「一億総活躍社会」です。その拠点のひとつとして烽火をあげたのが「月刊丈風」(丈風の会)です。みなさまと連携して、ほんとうの「一億総活躍社会=平成長寿社会」を創り出す歴史的事業に、お互いの「人生90年」の日また一日を重ねようではありませんか。

\*堀内正範 web「月刊丈風」編集人 元『知恵蔵』編集長

「丈風の会」<http://jojin.jp/> e-mail [mhori888@ybb.ne.jp](mailto:mhori888@ybb.ne.jp)

